平成26年度第２回鎌倉市環境審議会会議録

１　開催日時　平成26年11月27日（木）午後１時から午後２時45分まで

２　開催場所　横浜銀行鎌倉支店２階会議室

３　出 席 者　猿田会長、川口委員、内山委員、小田委員、亀山委員、郷原委員、瀬口委員、高野委員、波多辺委員、平井委員、二松委員、村田委員

４　事 務 局　石井環境部長、植地環境部次長、柳沢課長補佐、竹之内主事、渡辺職員

５　議　　題　（１）鎌倉市エネルギー実施計画の策定について
（２）かまくら環境白書について

６　配付資料

当日配布資料

資料１－１　鎌倉市エネルギー実施計画（たたき台）
資料１－２　鎌倉市エネルギー実施計画策定に係る施策等一覧
資料２　平成 26 年度版かまくら環境白書（素案）
参考資料１　ワークショップ等結果（速報）
参考資料２　ワークショップ結果
参考資料３　事業者の取組状況

当日使用資料

＊鎌倉市環境基本計画＜第２期改訂版一部改訂＞
＊かまくら環境白書(25 年度版)
＊鎌倉市地球温暖化対策地域推進計画＜改訂版＞
＊鎌倉市環境教育推進計画
＊鎌倉市エネルギー基本計画

７　会議内容

出席人数の確認後、配布資料の確認を行い、議事に入りました。

議題１　鎌倉市エネルギー実施計画の策定について

猿田会長　それでは議題１に入ります。「鎌倉市エネルギー実施計画の策定について」事務局から説明をお願いします。

竹之内職員　議題（1)「鎌倉市エネルギー実施計画の策定について」説明

猿田会長　ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。

亀山委員　資料１－１、５ページの将来ビジョンの図は何回か拝見しているのですが、目標①の20％について、いつからの20％削減なのか、目標②の再生可能エネルギー

等による発電量25％というのも、全電力消費量における割合なのか等、もう少し書き込んでもらった方がいいと思います。パーセントで表現するときには、母数がいくつかというのを入れておいた方がいいと思います。

また、12、13ページに施策の一覧とリーディングプロジェクト案が選ばれていますが、この目標を本気で達成しようと思っているのであれば、おそらく今年度から目標年に向けて毎年目標を達成していくことを想定した場合に、選ばれたリーディングプロジェクトで最終的に目標を達成するために必要な量を確保できるのか試算しなければ、ＰＤＣＡサイクルを回していることにならないと思います。

ＰＤＣＡの最初のＰ（プラン）のところで、これらの施策を実施した場合にどのくらいの削減ができるのかを試算するところまでが、プランだと思います。そしてＤ（ドゥー）して、Ｃ（チェック）してみて、チェックした結果、当初想定していた施策では目標の達成は危ういとなれば、また次を検討することになります。

12、13ページに掲載されている施策をそれぞれ実施した時に、どれくらいのエネルギーの消費削減に相当するのかまで検討して実施計画に入れるつもりなのか、伺いたいと思います。

竹之内職員　昨年度「鎌倉市エネルギー基本計画」75ページに、どうしてこのような目標数字を設定したのか記載しています。この目標は、様々な施策による効果の積み上げで実現できそうだと計算して設定したのではなく、神奈川県が同時期に策定した「かながわスマートエネルギー計画」と同じ考え方で、鎌倉市に置き換えた場合のパーセンテージを計算して設定したものです。

目標の達成はかなり厳しい状況となっています。「鎌倉市エネルギー基本計画」の75ページ囲みの部分で、例えばこのような対策を実施すると、どのくらいの効果があるのか試算していますが、これはあくまで仮の設定での試算であり、目標は実現不可能な数値ではありませんが、かなり厳しい挑戦的な数値となっている事を書かせて頂いています。

今回リーディングプロジェクトの案を選定させていただいた視点については、資料１－１の11ページにあるとおり、既にプロジェクト化されている施策や現時点で主に重点を置いている施策という視点から選ばせて頂いております。

施策を実施することでどれだけの効果があるか、という数値の積み上げは、なかなか難しい状況になっています。

亀山委員　挑戦的な目標であったとしても、その目標に対してやっていることがどれぐらいの意味があるのか、定量的にどれほどなのかということを、市民の方も知りたいのだと思います。今やっている事で達成できている感じなのか、実はこれ以外もやらなければならないのかを示して、最終的に実績を積み上げても目標が達成できそうもないのであれば、目標を掲げている以上、追加的な施策があるのかどうかを検討するべきでしょう。

市としてできるのかどうか分かりませんが、姉妹都市などを結んでいるならば、相手都市の削減に寄与する等、鎌倉市内だけで達成しなければならない目標ではな

いと思いますので、最初からこれはできないですよと言い切ってしまうよりは、何かの工夫で、最終的には地球全体的な話で目標を真摯に達成しようとする意気込みを感じられるような実施計画にしたほうが良いと思います。

植地次長　削減効果については、どの程度明らかにできるのかを調べて、できる範囲で効果を見せられるよう、工夫していきたいと思います。

猿田会長　目標①②の基準年は2010年ですね。鎌倉市エネルギー基本計画では、2010年を基準年度と言っています。

郷原委員　５ページに掲載されている内容については、基本的なイメージだけ示せればいいのではないでしょうか。基本計画策定の３年後に見直しの時期が来るので、目標項目の数値が経過的にどこまで達成しているか、そこで確認するという大雑把な考えでは、計画は成り立たないのでしょうか。

川口委員　目標数値の20％、25％を、リーディングプロジェクトですべて実現するわけではないと思います。施策全体の中で、まずできる事を、３年を目標にやろうということで、今できる事がここに載っていると拝見しました。

先ほど亀山委員がおっしゃっていたような、例えば「電気自動車を何台入れるのか。何台入れるとどのくらい削減できるのか」といった数字や目標は、やはり欲しい、どこかでデータ的に検証しなくてはいけないと思います。施策全体と、リーディングプロジェクトとは分けて考えた方が良いと思います。

参考資料１の５ページですが、映画「シェーナウの想い」という記載が気になったので調べたところ、電力会社から脱却して市で電力供給を行うという、かなり壮大な話でした。放射性物質から子供たちを守るために何ができるか考えて考えて、最初は皆が信じなかった話が実現したという話です。人口的には10数万人なので、鎌倉に近いようなところです。その中で、市民の方々が節電競争をしていました。活動されている方々の間で一番節電しているお家は表彰しよう、そういうことから節電競争が始まります。本当に、できる事から少しずつ始めていました。

そこまでやるのは難しいですが、京都市の町屋の工夫や、木質ペレットを使うなどの、発想の転換が参考になります。いろいろな場所の具体事例を集めて、できることからやる、というスタンスが必要ではないかと思います。

猿田会長　ある意味、地産地消ですね。基礎を作るのが大変です。

瀬口委員　リーディングプロジェクトについて、なぜこれを選んだのでしょうか。基本的にハードに頼るものが多く、予算を獲得して粛々とやればできるものが多いのが気になりました。ただそれはある程度、試算が可能なものを優先したのかなと感じました。

ハードでない部分では、地域ぐるみの省エネ行動の推進といったところが、試算不可能なもので、実際の実施計画の中身も情報収集をすること留まりになっていますが、これは実施計画なので、情報収集をして何をしたいのかまで書き込んだほうが良いと思います。

それから、10月のワークショップには私も参加しました。資料に羅列されている

ように色々な意見が出ていますが、これは市民が行動するネタだと思います。また、先ほど京都のあかりの話がありましたが、私たちのテーブルでも鎌倉の冬季イルミネーションが鎌倉のまちに合っていないという話題が出ました。資料の中であかり関係は「ご意見等」に入っていますが、活動すべき省エネなり創エネに入れて良い内容ではないかと思います。事業者、市民と行政も連携して、鎌倉らしいまちづくりに繋げられるという事では、ポテンシャルの高いものではないかと思いますので、市民の行動推進等のネタとして、もう少しピックアップして頂けたら良いのではないかと思います。

竹之内職員　リーディングプロジェクトを選んだ理由ですが、資料１の11ページに選定の視点を記載しています。まず昨年度策定した鎌倉市エネルギー基本計画の中で、リーディングプロジェクトの候補になっていたものを中心に、着実に実施できるもの、鎌倉市エネルギー基本計画を策定してから３年後に計画の見直しを実施しますので、その時点までに着実に前に進む目途が立っているものという視点で、ＬＥＤ化等すでにプロジェクト化している施策を選んでいます。

ご指摘のあった地域ぐるみの省エネ行動の推進や、エネルギー環境教育の実施など、数値化しにくい施策も選定していますが、こういった施策は現時点で重点を置いている事業として選定しています。例えば10月に実施したワークショップでは、市民、事業者の方から様々な取組をご紹介頂くことができ、行政だけではできないことでも、市民や事業者の方々と協働で実施していくことができるのではないかというヒントをたくさん頂いておりますので、無理のない範囲で、着実に実施できるという視点からも、こういった施策も選定しています。

柳沢補佐　補足ですが「鎌倉市エネルギー基本計画」の15ページ、上段の文書の中で「エネルギー基本計画で示す施策のうち、計画の目的等を実現するもので、エネルギー関連の取組みの全市的な拡大、将来像の達成に大きく貢献する全庁的な取組みであり、市が先導的に実践していかなければならない事業については「リーディングプロジェクト」として位置づけ、具体的な検討及び実施についてはエネルギー実施計画の中で行うこととします。」ということを挙げております。

また、鎌倉市エネルギー基本計画の97ページでは、取組みの体系として１から４までの基本方針に対して基本施策を挙げたうえで、それぞれリーディングプロジェクトにむけてと題して、リーディングプロジェクトの候補をあげさせて頂いています。ただ国等の動向や全庁的な状況を踏まえた上で、今回もう一度整理して提示した次第です。

二松委員　私はこの目標でいいと思います。今挙げているリーディングプロジェクトはハード面とソフト面がありますが、これから市民や事業者が努力していき目標が達成できるのか、ハード面は読めても、ソフト面はなかなか難しいと思います。

ある程度まで進捗したら、とても達成できていない、我々はもっと知恵と汗を出さなければならない、という考え方になると思います。そこで、自分たちで計画等を作り直していく、というやり方しかないと思います。

現時点で目標を達成できることが読めていれば、ただやればよいのですが、目標は高く、今考えている施策で達成するのは難しいだろうと私は思います。それでも進んでいく、という努力をしていけばよいと思います。完全に全部が読めるわけではありませんので、そういう考え方で計画を作り、今やれることを全て出し切ったところで、それからまた次のステップで考え直してやっていく、という進み方で良いと思います。

川口委員　今挙げられているＬＥＤ化や電気自動車の導入推進などを、実際にやっていくということで良いと思います。今回のリーディングプロジェクトというのは、数字的に目に見えるほど、鎌倉市のエネルギー削減にものすごく貢献するかというと、当初はそれほどでもないと思います。そういう意味では、先ほどの京都の町屋を使った工夫のような、話題性というか、鎌倉らしい地域に合ったプロジェクトのニュアンスが含まれると良いのではないかと思います。

例えば、植木剪定材の活用や避難所への再生可能エネルギーの導入等については、植木剪定材の活用は鎌倉市の場合は非常に先進的ですから、そういう所を工夫して鎌倉モデルというか、真庭市ほど日本中に名前が響き渡るということにはならないにしても、鎌倉らしさという点で工夫していくことで、リーディングプロジェクトとして貢献していく。鎌倉市だけでは達成できなくても、他のまちにも参照して頂けるようなものを、将来的にはぜひやって欲しいと感じています。

つまり、リーディングプロジェクトで全てをやることは無理だけれども、限られた予算とできることの範囲でエネルギーを投入するのなら、やはり「鎌倉らしい」もの、ほかの地域に参考になるといったタイプのものに力を入れていくのが良いと思います。

小田委員　目標設定や効果の把握という話が出ていますが、効果を簡単に定量化できる人はいないと思います。効果の定量化もそれぞれの検討課題とするのが大事ではないでしょうか。プロジェクトが進むとどういった効果があるのか、直接的な、また副次的な効果が分かるようにして、ＰＤＣＡサイクルの中に活かせるようにするのも１つの方法だと思います。

先ほど市民参加の話がありましたが、自治体ができること、という意味でリーディングプロジェクトをとらえると、今後、市民参加を促すという考え方で、自治体側も何かを発信して欲しい、という話だったと思います。１つのアイディアとして、自治体が活用している土地、場所、空間の一部で、市民に提供できるものは何があるかを示すと、市民の側で新しいアイディアが生まれてくることもあると思いますので、何か具体的な活動の場所を提案するのも一案かと思いました。

二松委員　ハードの面ですが、今ごみの有料化の話が進んでいます。燃やすごみが大体25％～30％減ると、今泉クリーンセンターをなくすことができます。今泉クリーンセンターがなくなると、エネルギーの削減効果が非常に大きいのに、それが掲載されていません。

以前お話した鎌倉の地形を生かした小水力、小風力といった新しい創エネも、プ

ロジェクトの中に入れて欲しいという希望もあります。

猿田会長　ごみ焼却施設の是非論を、ここで入れるか入れないかの問題もありますね。ごみの減量化が先にあるわけで、今の段階でどこまで書けるか非常に難しい問題です。

植地次長　ごみ処理基本計画の中では、平成27年度からは今泉クリーンセンターでは焼却しないという計画になっております。今回実施計画を作ったのはあくまでスタートになりますので、この後これをもとに年次報告という形で実績をお示ししていく中で、実態がどうなっていくのか、担当課と情報交換しながら出していけるかと思います。

猿田会長　今のお話のような計画があるのであれば、減量化という正しい市民の努力が必要ですね。

村田委員　資料１－２の29ページ「歩く観光」は、すごく良いと思いました。鎌倉らしさが加わり、良いイメージです。先ほど紹介があった京都の古民家を活かした昔ながらのまち、省エネのまちは、市民の共感を得やすいので、是非成果を出していただけると良いなと思いました。

「歩く観光」のところにパンフレット等の作成と書いてあるので、例えば、鎌倉から大仏まで歩くと何分なのか、そうするとCO_2が例えばレジ袋１杯分ぐらい削減できるなど、楽しめるような形で市民の声を入れて頂きたいと思います。歩くのが楽しくなるようなパンフレットを作ると、楽しみながらエコに参加でき、裾野を広げることができると思いました。

それから、資料１－２の７ページですが、ワークショップで出た取り組みを入れていたのは良いなと思いました。ワークショップに参加した人達にとって、ちゃんとした形で活かされたというのは嬉しくて、今後の活動にも弾みがつくと思います。

すごく良い意見が出されていますが、こういったワークショップに参加しても、出した意見がどのように生かされるのか分からないと思われているのではないかと感じているので、双方向の仕組みとしてフェイスブック等を活用したら良いと思いました。

今、観光課の事業でいろいろな市民が参加して鎌倉の良いところを発信したり、広報課で「ばっくん」というキャラクターを活用したお知らせが行われています。環境政策課でも、例えば「ＬＥＤにしましたよ」とお知らせするのも確かに良いと思いますが、情報を出すばかりなので、例えば観光課のように、ワークショップの出席者に登録してもらって「こんな取組をしたらこんな成果が出たよ」「ここは失敗しちゃった」などの発言をしてもらい、それにコメントを入れたり、市民団体も先進的な取組を載せたりしたら、裾野が広がるのではないかと考えました。

植地次長　今後、検討していきます。

猿田会長　良く検討して下さい。今日ご意見を頂戴したわけですが、今はたたき台の段階ですから、次回までに今日頂いたご意見を整理して形にして頂きたいと思います。

他にご質問やご意見がなければ、続いて、議題２について事務局から説明をお願いします。

議題２　「かまくら環境白書について」

柳沢補佐　議題（２）「かまくら環境白書について」説明

猿田会長　ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。

村田委員　30ページの「放射性物質に関する情報の収集・提供」ですが、「給食食材の検査では、検出された放射性物質の値が国の定める基準値以下であっても、放射性物質が検出された際には産地や食材の変更等、その都度対応を行っています。」とありますが、具体的にどの施設で対応したのか分からないので、「どこの給食でどの食材の産地変更がありました」と挙げてもらえると、母親として安心できると思います。

柳沢補佐　もう少し具体的に、ということですか。

村田委員　このままでは、保育園ではやっているが、小学校ではやっていないのか、と小学生の母親は思うのではないかと思います。

猿田会長　小学校ではやっていないのですか。

柳沢補佐　小学校でやったかどうか、確認します。

内山委員　35ページの環境騒音について、深夜花火の禁止についてだけ書かれていますが、今年鎌倉市は、周辺自治体の海水浴場における音楽禁止等の条例化等に伴って、海岸線の騒音で苦労されたと思います。鎌倉市でも条例化を検討されていると伺っていますが、環境白書の中で、鎌倉市が受けた被害をアピールされてはどうかと思います。

柳沢補佐　平成26年度のことですので、来年の環境白書編集時に担当課から情報が上ってくると思います。環境政策課から確認するようにいたします。

内山委員　次に、これも来年度かもしれませんが、どの自治体でもＰＭ2.5が話題になっています。今回の素案ではどこにも掲載されていないので、どこかに入れておくほうがいいと思います。

猿田会長　平成25年度には、ＰＭ2.5についてはあまり気にしてなかったですね。

瀬口委員　３点あるのですが、まず９ページのかまくらエコアクション21参加登録事業所の一覧と、12ページのエコショップ認定事業所の一覧について、毎年同じパターンで掲載されていますが、エコアクションにはたくさんの実施項目があるので、その中でどのようなアクションに取り組んでいるのか、記号か何かで結構なので、個々の取り組みや内容が分かるようにして頂きたいと思います。

２点目ですが、48ページの散乱ごみのクリーンアップ、また56ページの美化で、毎回ではないと思うのですが、散乱ごみの組成調査をしていると伺っています。活動しましたという事だけでなく、せっかく組成調査をしているのであれば、ぜひ組

成調査の結果を載せていただけたらなと思います。例えば、昔はたばこの吸い殻等が多かったが、今はペットボトルが多いというような事が分かれば、それを知ることが対策に繋がると思います。

３点目ですが、114ページ以降に市民団体との協働事業が載っているのですが、掲載の基準は、市と連携している団体、ということでしょうか。私の参加している「鎌倉のごみ減量を進める会」は市の要綱で設置された会ですが、掲載を忘れているだけかどうか、お聞きしたいと思います。

柳沢補佐　「鎌倉のごみ減量を進める会」につきましては、担当課に確認します。

植地次長　かまくらエコアクション21、エコショップについては、掲載できるものがあれば、掲載方法を検討します。

猿田会長　私はいくつかの自治体で審議会に出ていますが、こういった報告書では事業所の件数だけはどこでも記載していますが、事業所名がこれだけ載っているのは珍しいことです。事業所名が書いてあれば、市民の方も「買い物するならあそこに行こう」ということにもなると思います。

植地次長　ごみの組成調査も、担当課に確認して、もし情報提供できるのなら掲載する方向で検討します。

猿田会長　13ページに「移動電話」とありますが、これは何ですか。携帯電話のことですか、自動車に積むような移動電話でしょうか。

柳沢補佐　携帯電話の事なのか、確認いたします。

猿田会長　６ページに「基準年度」という表現が出てきますが、最初に基準年度が何年なのか書いてありますか。エネルギー基本計画とは基準年度がまた違ってきますが、ここでの基準年度はいつですか。

柳沢補佐　基準年度は、平成２年度（1990年度）です。基準年度が分かるような形で掲載します。

猿田会長　６ページで「いずれも対基準年度」とあるのは、「いずれも対基準年度比」と、「比」を入れるようにしてください。

柳沢補佐　分かりました。

川口委員　42ページに「１人当たりの都市公園等の施設緑地の面積は5.76㎡です」とありますが、5.76㎡の話が他にも44ページ等複数のページに出てくるので、何回も出さない書き方に工夫してみてはいかがでしょうか。

植地次長　工夫します。

猿田会長　それでは、時間の都合もありますので、白書の関係等でご意見がありましたら、これから１週間くらいを目途に事務局にご連絡ください。それでは、次の「その他」に移らせていただきます。

では、事務局から説明をお願いいたします。

「その他」について

植地次長　それでは、３点ほどご説明します。

まず１点目ですが、前回ご説明したとおり、環境基本計画の見直しを、今年度から来年度にかけて予定しています。次回の審議会で、諮問をさせていただく予定ですので、お知らせいたします。

２点目ですが、本日審議会の議事録の確認につきまして、議事録の案を作成のうえ、内容確認の依頼を送付させて頂きたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

最後に、今後のスケジュールですが、次回審議会の開催時期は、１月下旬頃を想定しております。日程につきましては、お手元に候補日を記載した調査票をお配りしてあります。担当者が回収させて頂きますので、ご都合をご記入下さい。

猿田会長　ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。ご意見が無いようでしたら、「その他」を終了します。

以上で本日の議事は終了しましたが、事務局から何かありますでしょうか。

それでは、次回の環境審議会は、日程が決まりましたら事務局からお知らせください。よろしくお願いします。以上で本日の議事を終了しましたので、閉会といたします。